

Vol.  
**52**  
March  
1st 2005



# NEWS LETTER KUMAMOTO

Publisher : Kumamoto International Foundation 4-8 Hanabata-cho, Kumamoto City, 860-0806, Japan  
Tel: 096-359-2121 Fax: 096-359-5112 e-mail: pj-info@kumamoto-if.or.jp URL: http://www.kumamoto-if.or.jp/

発行 : (財) 熊本市国際交流振興事業団 〒860-0806 熊本市花畑町4-8  
Tel: 096-359-2121 Fax: 096-359-5112 e-mail: pj-info@kumamoto-if.or.jp URL: http://www.kumamoto-if.or.jp/

## 特別寄稿

## 世界を奔(はし)る詩精神

—安永落子—



熊本市国際交流会館は日本に在って、日本の熊本に在って、誰よりも日本のことを、熊本のことを知り尽くして、他者に対応する機関であると、凡ての人は信じて疑わない。それは日本人、熊本人に於いてもその信頼は海外の人と同じである。国際交流会館に勤務する人たちも出来る限りの力と智力を尽くして、それに応えようとしている。その風景は、ある時、地上に広がる草生(くさぶ)のように美しく、ある時は風に吹かれてそよぐ草生のように健気である。

そこで、一年間、中国の最高の人倫であり、永劫の徳義をもって全世界に理解され、納得されている、「論語」を読む会が設けられた。決して意外ではなく、当然のこころみであった。古典音楽を愛した孔子の一面のゆるやかな草の動きを見るのである。

国際交流会館では何よりも世上の人々のおだやかな生活を望み、そのために多くの人々の心と肉体の平安を望む。

日本は古代に於いて文字をもたぬ民族であった。しかし地球の北半球に位置する極めて身近な別社会への関心から、中国に接近する。そして中国の文字をもって日本の国民は生活の中におけるお互いの理解を保ち、それはまた中国への理解となってゆく。国際交流のはじめであった。日本は島国であり、四周は海であった。自由な展望が小国日本に住む民族に与えられたのは、自然の恩恵でもあった。

日本と中国との交流は、広々とした海の自由な広さの中ではじまった。そして中国の文字・千字文(せんじもん)が日本に於いては、かな文字の発明、そして、片かな利用などで、おのずから中国への融和と理解をもった。日本人も文字をもって学問をはじめ。学問は、どう生きるか、を知ることである。当然、四海に在る多くの国の人々と共にどう生きるかということである。それは初めに於いて、極めて政治的な行動であった。他国の人々とどのように融和して生きてゆくか、という、いわば理想の頂点に、世界各国を通じてそれぞれの詩精神の必要があることは当然である。それは現代も変わらぬことだ。

しかし、長い間生きて来た日本にも、中国にも、地球上のことであっても、それぞれに多少の違いのある風土に生きた。その上での文字の使い方、おのずから中国と日本とでは違いが出てくる。

多くの識者によって言われているように、中国の文学は政治的な場で生まれている。広大な土地にすむ人々の全体的な融和のために、文学はいつもどう生きるか、が政治の上に存在した。日本は海上にある一つの島国で、政治よりも自然の中で生きる。自然と人生という相対的な面で文字を多く使いはじめる。

## CONTENTS

特別寄稿「世界を奔(はし)る詩精神」	1・2
NGO活動最前線熊本・ハイデルベルグ友の会	3
事業団からのお知らせ	4・5
Hello World	6
「世界で一番、危険なところ(?) - アンマン(ヨルダン)にて」	
ちょっと言わせてはいよ!	7
ちょっと日本語	8